

『テニピン』実施レポート

| | | | |
|-------|--------------|---------|-----------------|
| 学校名 | 宮崎県小林市立三松小学校 | 実施日 | 2024年 11月～12月 |
| 担当教員名 | 末原 義国 | 実施学年/人数 | 5年生/88人 6年生/58人 |

1 学習指導計画

| 時 | 1 | 2～4 | 5～7 | 8 |
|------|--|--|--|--|
| めあて | ボール操作とボールを持たないときの動きを身に付けよう。 | | 身に付けた技能を生かして、簡単な作戦を選びながらゲームを楽しもう。 | |
| 学習活動 | 1 オリエンテーション ・テニピンについて ・チーム作り ・ルールの確認 等 2 準備運動をする。 3 ドリルゲームをする。 ・コロコロゲーム ・キャッチ&ラリー ・ペアラリー 4 試しのゲームをする。 5 本時の学習について振り返る。 | 1 準備運動をする。 2 本時の学習内容を確認する。 3 ドリルゲームをする。 4 個人の課題を確認し、課題別に練習を行う。 ・しっかり当てて ・エースをねらえ ・キャッチ&ショット 5 ゲームを行う。 6 本時の学習について振り返る。 | 1 準備運動をする。 2 本時の学習内容を確認する。 3 ドリルゲームをする。 4 チームの作戦に応じた練習を行う。 5 ゲーム① 6 作戦の練り直しを行う。 7 ゲーム② 8 本時の学習について振り返る。 | 1 準備運動をする。 2 チームで作戦を確認する。 3 三松cupテニピン大会を行う。 4 本単元の学習について振り返る。 |

2 授業の実際

第1時ではテニピンとはどんなスポーツなのかについて知り、児童がボールとラケットに慣れること、テニピンをやってみたいと思えることを目標に取り組んだ。児童は、コロコロゲームやキャッチ&ラリーなどにとっても楽しそうに取り組んでいた。



第2時～第4時では、ドリルゲームやゲームを通して、個人の課題を明らかにした。そして、その課題を解決する

ためには、どのような練習を行えばよいかを考え実践して 【写真1 第1時の試しのゲームの様子】 いった。児童はお互いに教え合い、見つけたコツを共有していく中で、ボールの打ち方、ボールを打たない時の動き、点の取り方などを理解し身に付けていくことができた。

第5時～第7時ではリーグ戦を行った。試合を通して、チームに合った作戦を選ぶ力、試合を振り返り課題を解決するための練習を考える力等を高めていた。

第8時では、テニピン大会を開き、単元のまとめを行った。

3 授業づくりの工夫・指導の工夫

授業づくり・指導の工夫として、個人の課題を解決するための場の設定を行った。

① しっかり当てて

ラケットにボールを上手く当てる練習の場として、壁打ちの場を作った。繰り返し練習をすることで、正面でラケットにボールを当てられるようになった。



【写真2 壁打ちの練習の様子】

② エースをねらえ

狙った所にボールを打つ場として、コーンに当てる練習を行った。児童は、自分の課題に合わせて難易度を変え、練習を行った。



【写真3 易い難易度での練習の様子】



【写真4 難しい難易度での練習の様子】

③ キャッチ&ショット

狙ったところに打ったり、組み立てを意識したりして取り組ませた。一度キャッチしてから返球させることで、狙ったところへ打つ意識がもてるようになった。キャッチしなくても直接打ち返せるときには、打ち返してもよいことにし、実際のゲームを意識して練習を行わせた。



【写真5 実際のゲームを意識した練習の様子】

4 感想・質問・今後の実施予定等

テニピンという初めてのスポーツを通して児童が協力して楽しむ様子が多く見られた。テニスやバドミントンを経験している児童が少なかったため、スポーツの得意不得意に関わらず、どの児童も楽しめている様子だった。また、ダブルスで試合を行うことは、全員に均等にボールに触れたり、得点したりする機会が保障されており全員参加型の授業を行うことができ、個が活躍する場面が他のボールゲームの運動よりも増えたように感じる。新しい種目を体育で取り入れることは、児童の意欲や考える力を高めるためにも大変効果的であったと感じた。今回は、高学年だけの取組だったが、今後は中学年においても計画的に取り組んでいきたい。